

淀川水系流域委員会会議ご意見

第2回淀川水系流域委員会会議への意見等

	発言者 所属等	傍聴 希望	意見	聴取 媒体	備考
1	住民団体		私共は、野洲川に注ぐ杣川の上流に住んでいます。そのような山に近い土地でありながら、昨年の夏にはアオコや赤潮のようなものが川に発生しました。流れ込む排水は、ゴルフ場から、田から、家庭から、工場から、産廃埋め立て地からと、様々な要因があり、杣川にも野洲川にも天然の鮎が住まず、小さなカワムツ、ヤゴを目にする程度です。下流の人の飲み水を確保しようとするには、やはり上流からきれいにする事を心がけなければいけません。都会の人が便利な生活を維持する為にゴミをどんどん捨てるが如く、田舎の人も仕事がラクなように農薬や除草剤を使ってしまいます。お互いがきれいな環境を求めるなら、大量消費の生活を改め、ゴルフをしに行った時は、草の百本も引く位の気持ち、少々穴のあいた野菜を食する気になる必要があると思います。それから、田舎に行って、里山に落葉樹の植林とか、無耕作の田の草引きに参加してみるとか、そんな体験をしつつ、安易に産廃を田舎に押しつけない姿勢が大切だと思います。又、信楽の大戸川ダムに反対を。	Fax	
2	住民団体	×	琵琶湖の水位調整について（続報） 淀川水系下流域府県水行政担当者様 琵琶湖の利水のための高水位により、湖岸環境に甚大な被害が生じています。 被害状況HP <a href="http://www.os.xaxon.ne.jp/~jmc/green/pages/hamakake1.html">http://www.os.xaxon.ne.jp/~jmc/green/pages/hamakake1.html</a> 下流域府県の方も国、滋賀県と一緒に考えてください	E-mail	別紙 (水位 上昇による新 海浜の 被害)
3	住民団体	×	(続報) 琵琶湖湖岸侵食による松倒壊災害発生！ ご報告いたします。 3月15日午後滋賀県彦根市新海浜の湖岸の松が琵琶湖の水位上昇の影響で倒れました。とうとう災害になりました。まだ、危険な箇所がありますので人災にならないかと危惧しております。状況は以下のHPの「びわこの水位上昇による被害」をご覧ください。 <a href="http://www.os.xaxon.ne.jp/~jmc/green/pages/hamakake1.html">http://www.os.xaxon.ne.jp/~jmc/green/pages/hamakake1.html</a> 3月5日の以降、現状を報告し、何度も琵琶湖工事事務所、県水政課に水位を下げるようお願いしてきましたが松が倒れて非常に残念です。琵琶湖湖岸侵食の主原因の探求、滋賀県立図書館新聞記事検索結果です。 ----- 浜かけ OR 侵食 AND 大津・滋賀郡 OR 湖南 OR 湖東 OR 湖北 OR 湖西 OR 琵琶湖、該当件数は17件です。 No 記事見出し新聞名掲載日付	E-mail	別紙 (ついに松が 倒壊)

	発言者 所属等	傍聴 希望	意見	聴取 媒体	備考
			<p>4. 琵琶湖岸の松、十数本倒れる県など調査彦根(侵食されているところへ強風を受け)  ・朝日、毎日 1999年3月25日  新海浜では2年前にも、同じことが起っています。17以外すべて、1992年からの琵琶湖総による水位操作が始まってから起っています。</p> <p>1. ハマゴウ、群生地がピンチ水位上昇と強風で侵食新海浜彦根  ・毎日 2001年3月6日</p> <p>2. 湖岸侵食で倒壊危機今津・琵琶湖周航の歌記念碑  ・読売 2000年7月4日</p> <p>3. 琵琶湖、砂浜侵食に“先手必勝”航空写真で地点予測事前に防止策を検討へ県  ・毎日 2000年6月30日</p> <p>6. 水深1-1.5m、湖底の砂移動北湖のなぎさ侵食県が調査結果公表  ・京都 1997年3月6日</p> <p>7. 「さいかち浜」侵食修復へ新たに砂を補給長浜  ・京都 1996年2月26日</p> <p>9. 美しいマイアミ浜が復元一昨年季節風で侵食被害中主  ・中日 1995年1月5日</p> <p>10. 水上スポーツのメッカ長浜さいかち浜復元工事夏休みを“侵食”完了は7月末  ・読売 1994年5月21日</p> <p>11. 砂浜侵食防止に2作戦突堤設け砂補充回復に期待高島・萩の浜で県が改修  ・京都 1994年2月17日</p> <p>13. 白砂青松の風景保全を侵食進む琵琶湖岸恒久対策早急に(中主町の...)〔近江湖  ・読売 1993年1月17日</p> <p>14. ストップ侵食ゴム製の堤防設置へ砂浜の回復促すびわ町の南浜水泳場  ・京都 1993年1月7日</p> <p>15. びわ湖の砂浜消えたマツ倒木相次ぐ10カ所で最大20m砂防工事で流入量減少  ・産経 1992年6月6日 京都/24日朝日/24日読売/24日毎日/24日</p> <p>16. ハマヒルガオ危機!湖岸の砂浜侵食で後退守山市今浜町</p>		

	発言者 所属等	傍聴 希望	意見	聴取 媒体	備考
			<p>・京都 1992 年 5 月 23 日 17. ` 白砂青松 に危険信号びわ町南浜水泳場侵食やせ細る砂浜姉川工事で水流変化</p> <p>・京都1991年 5 月31日</p>		
4	会社員		<p>私はヨシを業としていますが、今年も2月に入って、急に水位が上がってヨシの刈り取りが出来にくくなり3月に入って+35cmまで上がってヨシの刈り取りが出来ずマスコミを通して水位を下げるようにしてもらい又滋賀県知事に現場の状況を見に来てもらいましたが冬場の水環境は水位が低いようにしてもらおうことで我々も自然環境も保たれると考えますので水位について見直しをお願いします。</p>	Fax	
5	無所属	×	<p>橋本の観察記録(5) 3月20日淀川観察 淀川、JR鉄橋のある豊崎あたり河川が整備された。このあたりにはウラギク、ホコガタアカザ、カサスゲ、アシが群生していた。これはつぶされた。しかしここは淀川の流れが長柄橋方面からきて直接当たる。堤防は厚みがなく、河川敷もなかった。この工事で河川敷ができた。防災上やもうえないかも。この河川敷は草が葎が茂るようにし環境回復してほしいものだ。淀川中津、ここは葎原が両岸にあり野鳥たちの休息場所だった。ホシハジロが一羽近くいた記録もある。しかし最近の中津のカモ類はすくない。毛馬の淡水側にいたこともある。近頃は淀川河口部から神崎川に群れている。原因は冬でもウエットスーツ着けて水上スキーやジェットスキー楽しむ人がいる。水面は自由使用で規制は難しいとのこと。カモたちのために自主規制してほしいものだ。淀川にはいろんな野鳥が渡ってくる。そのなかでカンムリカイツブリがすきだ。淀川ワンドで採餌していた。この鳥の類髯がダンデイだ。この髯が生えると北へ渡って行く。しかし渡らないで越夏ものもいる。琵琶湖で繁殖記録もある。</p>	E-mail	別紙 (淀川・ カンム リカイ ツブリ)
6	会社員		<p>1.はじめに 本委員会のメンバーは、各界で功績のある学識者、実績を重ねられた住民団体を代表する方であり、治水・利水及び環境の調和を図り、河川・流域が心の故郷となるような河川整備計画が策定されることを期待しています。 しかし懸念されるのは、委員に洪水・土石流の被災体験者や、被災体験を元に治水事業の推進に熱意を注いだ地域住民がおられないことです。 河川管理者は定員削減の影響により、洪水時に現地に出向けないものと思われ、洪水、土石流の状況を実体験しないで治水の必要性を語らなければなりません。従って治水の重要性について説得力のある説明をしていただけるかが心配であります。</p>	郵便 (Fax)	

	発言者 所属等	傍聴 希望	意見	聴取 媒体	備考
			<p>この点について被災体験等のある地域住民を参考人として招き意見発表や、懇談会の開催当を考慮して頂くようなことも考えていただくようお願いいたします。</p> <p>2. 河川整備計画策定に際して配慮願いたいこと</p> <p>2.1 河川整備計画策定の基本的理念について</p> <p>今まで各地で「魚の登りやすい川造り」、「多自然型川造り」等が行われてきましたが、断片的であり広域的な視野で考えて実施されたとは思えません。</p> <p>21世紀に向けての川造りは、健全な水循環、物質（有機質、栄養塩類）循環、土砂動態を考慮し、流域全体として生物の多様な生息・生育環境の保全・創成と、安全で快適な生活基盤の形成との調和を図ることを踏まえて、河川、湖沼ばかりでなく海岸、林野、都市部、農村部のあり方を考えた河川・流域整備の基本理念を共有しなければならないと思います。</p> <p>2.2 貴重種等（注目すべき種）の保全に関する取り扱い</p> <p>極地的（正確な用語？）な貴重種及び南限・北限の生息種の保全に配慮するとしても、その保全を優先する取り扱いは疑問に思います。</p> <p>その理由として、私の知り得た例を次に示します。</p> <p>極地的な貴重種に関しては、多摩川で砂礫の河原であった高水敷にニセアカシアが繁茂し、河原植物のカワラノギク等の希少種が絶滅する恐れがあり、高水敷を2m掘削する計画があると聴きました。（H12 生態環境工学会）外来種のニセアカシアに多少の抵抗がありますが、落葉樹であり春先にはニセアカシアの生育範囲にも草が繁茂する等、砂礫の河原よりも植物による有機質の生産性は高く、昆虫、鳥類、哺乳類等の動物の生息種も多く、水域の魚貝類の生息にも適した環境となり、砂礫の河原より多様な生物の生息・生育環境と考えられるのではないのでしょうか。</p> <p>また、2m高水敷を下げたことにより、水分条件が良くなり、日本の一つのシンボルの植物であるヨシ群落が生育した場合にどう考えればよいのでしょうか。</p> <p>淀川環境問題研究会では、湿地性植物の貴重種タコノアシがヨシの復元により衰退することをやむなしとされましたが、私はその意見に賛成です。</p> <p>南限・北限の生息種の保全に関しては、紀ノ川河口におけるタイワンヒライソモドキの保全ですが、その対策は他の水生生物にも良い生息環境となるので反対すべきものではないと思います。しかし、南方に生息するカニの種の幼生が、プランクトンとして海流に乗り漂着した種を、北限で珍しいと言うだけで保全される</p>		

	発言者 所属等	傍聴 希望	意見	聴取 媒体	備考
			<p>べきなのか。            タイワンヒライソモドキに限らず、その河川の在来種との競合も考えられるので、生物の委員の方の保全に対する御意見はどうでしょうか。</p> <p>2.3 実施された計画による河川管理施設等の評価について            主要な計画に基づく河川管理施設等について、計画目的、目的に対する評価、環境面での評価、副次的な効果（得失）等を整理して、委員会で意見交換を行い過去の事業計画に対する認識を深め、継続して実施すべき計画、改善すべき計画、代替案で実施すべき計画等を見定めることを出発点にすることが現実的であるように思います。</p> <p>「評価すべきと考えられる計画」</p> <p>1) 多目的ダムについて            ダムによる洪水調節効果（氾濫防止面積、被害軽減額等）、環境面での得失（水質、生物、景観）、観光利用等の副次的効果（観光施設の立地・収益、来訪客数等）等について整理する。</p> <p>2) 淀川低水路計画（淀川大堰を含む）と河川公園計画について            淀川低水路の拡幅と淀川大堰建設による洪水時の流量（既往最大洪水流量、計画高水流量、基本高水を現在の完成ダムで調節した流量等）の水位低下効果。            河川公園については、施設公園の利用者数、野球場等の申し込み倍率と施設整備の要望及び自然地区・野草広場地区の評価。            淀川低水路・高水敷の動植物の生息環境に対する評価。</p> <p>3) 宇治川塔の島河道計画について            塔の島河道計画を治水、景観面から評価を行い嵐山地区、鹿跳溪谷の河道計画立案に役立たせることが肝要。塔の島河道計画は、宇治先陣争い面影を止めるように水量豊かなせせらぎを残したことは歴史的な意義がある。</p> <p>4) 琵琶湖開発事業について            洪水時における治水評価、渇水時における被害（取水、航行、漁業等）に対する評価及び水生生物に対する影響評価</p> <p>5) 砂防事業について            荒廃地の緑化回復面積及び回復地の植物群落（山腹工施工年度別）とその評価、砂防堰堤による山腹安定効果及び下流人家の安全に関する評価、木津川上流の滝川落差工群計画におけるオオサンショウウオ保全対策の</p>		

	発言者 所属等	傍聴 希望	意見	聴取 媒体	備考
			<p>評価、砂防事業による副次的な効果として、信楽砂防地区等の登山客数等を評価する。(負の効果も評価する。)</p> <p>6) その他 淀川流水保全水路計画、アユ産卵のための姉川人口河川計画等</p> <p>3. 広域的視野による望ましい流域自然環境の保全について 広域的視野による望ましい流域自然環境の保全を考える一例を取り上げました。 全国的にクマタカ、イヌワシ等の猛禽類がダム建設反対のシンボルとして取り上げられています。そのような開発の影響区域において猛禽類の保全対策を講ずるのは意義があるが、人命・財産を守るためにダム建設が必要であるとするならば、ダム建設中止を決定する要素としてはならないと思います。それよりも淀川水系全体として(或いは全国的視野で)枝振りの良い針葉樹を猛禽類の営巣木として指定して買い取り、また猛禽類の狩り場としては、杉、桧等の針葉樹の植林帯より、広葉樹林の方が餌となる小型哺乳類、鳥類、爬虫類等が豊富であるので、放置された針葉樹の植林帯を補償により広葉樹林の自然に帰す事を行うべきであろうと思います。また里山保全運動が高まっていますが過疎化した山村僻地の里山は、将来の人口の減少、産業構造の変化を考えると、里山を自然に帰し猛禽類の安心して生息できる場とする等の広域的視野により流域自然環境の保全を目指すべきではないでしょうか。しかし民謡、民話、伝説の発祥等の日本民族の心の故郷となる里山は奥地でも残すべきでしょう。</p> <p>4. 治水面から守るべき条件の理解について 1例として、淀川河道計画を取り上げると、低水路は幅約130mを約300mに拡幅し、河床を3～4m切り下げ、高水敷は在来より高くする計画です。 これは高水敷の冠水頻度を少なくして施設公園の利用に役立てると共に、堤脚付近の洪水の流速を緩くして堤防の安全を図るとされています。(淀川百年史参照) 一方、高水敷が高まると春先から初夏の豊水期に河川の水が高水敷に冠水しないためにフナ、コイ等の産卵・地仔魚の生育の場が失われることになり、またヨシ等の水辺植物の生育環境を損なうので、生物の立場からは高水敷を下げる事が望ましいと提言されています。従って、ここで治水と環境との調和を下げることは、堤防沿いの流速が早くなるので、絶対避けなければなりません。ただし、堤脚から一定距離の計画高は守り、その先の高水敷の計画高を下げることは考えられると思いますが(これは私見です)、その距離等は綿密な水理計算と模型実験等により定め、委員会で理解していただく必要があると思います。</p> <p>5. 緑のダムとコンクリートダム不要論について</p>		

	発言者 所属等	傍聴 希望	意見	聴取 媒体	備考
			<p>自然保護団体のシンポジウムでは、今でも「緑のダム神話」が支持されています。市町村史には殆どの市町村が古くから、数多くの洪水による被害を記載しており、このような古い時代に水害があったことは、緑のダムが無かった、即ち山野に草木が繁茂していなかったと考えるべきでしょうか。私は都から離れた地方でも水害があったことを緑のダムが無かったと考えることはできません。</p> <p>日本に水稲栽培の文化が伝来し、水田は取水の容易な河川の畔にあり、人々は水害の危険を覚悟して作業に便利な水田の近くに住居を構えたことでしょう。戦国時代に武田信玄等の武将は、度重なる水害に対して国を豊かにするために、農民が安定して稲作等が行われるように治水事業に力を注ぎました。このことは、十分な緑のダムがあった時代にも水害が発生していた事を証明するものではないでしょうか。</p> <p>治水の安全度は次第に高められてきましたが、記録にある最大の洪水を防ぐ河川は少ないのですが、沿川の人々は祖先から引き継いだ土地・家屋等を守るために、水害の危険をある程度予測はしても、そこに居住しているのではないのでしょうか。</p> <p>経済水準の向上により、各家庭の電化製品、家具類、自動車等の財産が増加し、氾濫区域に商工業施設が進出しているので、緑のダムを補うために治水施設の整備により安全度の向上を図らなければなりません。</p> <p>委員会においては、緑のダムの効果の限界、洪水調節ダムと代替案としての堤防の嵩上、引堤、掘込河道等の得失等の基本的な考え方についても意思統一を図っておくことが必要であると思われます。</p>		

## 水位上昇による新海浜の被害

びわ湖の水位上昇により新海浜湖岸の樹木など崩壊の被害（3月14日撮影）

ついに生け垣崩壊



大きく削りとられ根がむき出しになった松並み木



波によっていちじるしくえぐりとられた湖岸



ハマゴウの波除板も波によってなくなる





## 水位上昇による新海浜の状況

びわ湖の水位上昇により新海浜湖岸の樹木など崩壊の危機（3月5日撮影）。

強風ではまごうが自生地が波にのまれる



波に洗われ松並木の根がむき出しに



はまごうを守るため地元住民の手で波除を施す



松並木が波にさらわれるのもまもなく



地元住民で施したはまごうの保護波除



まもなく波に倒される桜の木



波に洗われかろうじて立っている松



3月5日～7日の2日間で見える波による侵食

3月5日



3月7日 2日間で波により破壊が進む湖岸



3月6日(火)新聞記事

3月5日～14日の新海浜湖岸の崩壊の経過状況写真

3月5日



3月14日



ついに松が倒壊 (3月15日)

びわ湖の水位上昇により新海浜湖岸の生け垣につづき松が倒壊 (3月15日撮影)。

- 3月5日の新海浜の状況
- 3月5日～7日の2日間で見る波による侵食
- 3月6日(火)の毎日新聞の記事
- 3月5日～14日の同地点の崩壊状況写真
- 3月14日ついに生け垣崩壊

2001年

- 3月17日 中日新聞報道
- 3月17日 京都新聞報道
- 3月17日 朝日新聞報道



3月17日 新聞報道

3月17日 新聞報道

3月17日 新聞報道



「淀川」



「カンムリカイツブリ」

